

【相撲の特性に応じた講習に関する感染防止ガイドライン】

※講習会事前・事後の対策および当日の受付時や施設内での生活に関する対策、体調不良者発生時の措置等については、日本武道館作成ガイドラインに則り対応いたします。

段 階	講義講習	実技講習	指導案作成 および 指導案による指導実践
社会一般に一定の感染リスクが持続している状態	● 5人～7人1班で班編成する。 ①会場は十分な広さを確保する。 ②座席は間隔を十分に開ける。 ③演壇と受講者の席の間隔を開ける。 ④扉、窓を開けた状態を保ち、十分に換気を行う。 ⑤基本的には、講師・受講者共にマスクを着用したままで行う。 ⑥大声を出さないようにする。 ⑦備品・用具の共用はできるだけ避ける。(ペン、マジック、付箋等) ⑧開始前、終了後の手指消毒を徹底する。 ⑨班別協議などの際には、班員同士の	● 5人～7人1班で班編成する。 ①会場は十分な広さを確保する。 ②受講生同士の間隔を十分に開ける。 ③講師と受講者の間隔を十分に開ける。 ④扉、窓を開けた状態を保ち、十分に換気を行う。 ⑤基本的には、講師・受講者共にマスクを着用したままで行う。 ⑥大声を出さないようにする ⑦備品・用具の共用はできるだけ避ける。 ⑧開始前、終了後の手指消毒を徹底する。 ⑨基本動作については、十分に間隔を保ったまま行う。 ⑩対人技能については、動画等で良く確認した上で、相手を想定しながら単独で動き方を実践する。(対人では行わない) ⑪簡易試合、試合については、行わない。 ⑫その他、状況に応じて適宜三密を防ぐ工夫をするなど、柔軟に対応する。	● 5人～7人1班で班編成する。 ①会場は十分な広さを確保する ②受講生(生徒役)同士の間隔を十分に開ける。 ③講師(教師役)と受講者(生徒役)の間隔を十分に開ける。 ④扉、窓を開けた状態を保ち、十分に換気を行う。 ⑤基本的には、講師・受講者共にマスクを着用したままで行う。 ⑥大声を出さないようにする ⑦備品・用具の共用はできるだけ避ける。 ⑧開始前、終了後の手指消毒を徹底する。 ⑨指導案のテーマから対人的技能を除く(例：礼法、四股、運び足、仕切りからの立ち合いなど) ⑩指導案には、対人で身体接触を伴う内容を入れないようにする。 ⑪指導案に簡易ゲーム等を取り入れても良いが、身体接触のないものに限る。 ⑫その他、状況に応じて適宜三密を防ぐ工夫をするなど、柔軟に対応する。
社会一般に感染が収束に向かいつつある状態	の間隔を十分に取り、直接対面の位置に座らないようにする。 ⑩その他、状況に応じて適宜三密を防ぐ工夫をするなど、柔軟に対応する。	● 5人～7人1班で班編成する。 ①会場は十分な広さを確保する。 ②受講生同士の間隔を十分に開ける。 ③講師と受講者の間隔を十分に開ける。 ④扉、窓を開けた状態を保ち、十分に換気を行う。 ⑤基本的には、講師・受講者共にマスクを着用したままで行う。 ⑥大声を出さないようにする ⑦備品・用具の共用はできるだけ避ける。 ⑧開始前、終了後の手指消毒を徹底する。 ⑨基本動作については、十分に間隔を保ったまま行う。 ⑩対人技能については、動画等で良く確認した上で、形や動き方の確認をメインに、互いに息が乱れない程度の強度で行う。繰り返し行う場合は回数を2, 3回程度に限定とし、短時間で終わるようにする。受けと攻めを決めて行うものに限って行う。 ⑪簡易試合、試合については、ごく短時間でできる簡易なものに限って行う。 ⑫その他、状況に応じて適宜三密を防ぐ工夫をするなど、柔軟に対応する。	● 5人～7人1班で班編成する。 ①会場は十分な広さを確保する。 ②受講生(生徒役)同士の間隔を十分に開ける。 ③講師(教師役)と受講者(生徒役)の間隔を十分に開ける。 ④扉、窓を開けた状態を保ち、十分に換気を行う。 ⑤基本的には、講師(教師役)・受講者(生徒役)共にマスクを着用したままで行う。 ⑥大声を出さないようにする ⑦備品・用具の共用はできるだけ避ける。 ⑧開始前、終了後の手指消毒を徹底する。 ⑨指導案のテーマに対人的技能を含む(例：礼法、四股、運び足、仕切りからの立ち合い、押し、出し投げなど) ⑩指導案に対人で身体接触を伴う内容を入れても良いが、形や動きの習得・確認を主眼とした短時間のものとし、互いに攻防し合うような内容は扱わない。 ⑪指導案に簡易ゲーム等を取り入れても良いが、身体接触の時間が短く、ごく簡単なものに限る。 ⑫その他、状況に応じて適宜三密を防ぐ工夫をするなど、柔軟に対応する。